



■八丈農業を今後担っていかれる八丈町農業研修センター3期生の紹介■

2017年度より八丈町農業研修センターへ入所し、2020年度末卒業予定となる3期生から営農開始に向けての抱負を伺ってみました。



浅沼 壮 さん (36)
営農開始予定面積、
主となる耕作地域
5,000㎡・大賀郷
主要作目
レザーファン（施設栽培）
抱負
所有地開墾伐採し、経営
主要作目となるレザーの
施設と経営地を徐々に拡
大しつつ、ロベレニーも
露地にて手掛けていき
たい。



大野 海平さん (27)
営農開始予定面積、
主となる耕作地域
2,000㎡・大賀郷
主要作目
ルスカス（施設栽培）
抱負
主要作目ルスカスの施設
栽培拡大を目指しつつ、
機会があればロベレニー
も手掛けていきたい。



沖山 至さん (45)
営農開始予定面積、
主となる耕作地域
2,300㎡・末吉
主要作目
ロベレニー（露地）
抱負
ロベレニーの経営地・施
設化を増やしつつ、妻と
共に安定した営農に務め
ていきたい。



金田 秀彦さん (40)
営農開始予定面積、
主となる耕作地域
1,300㎡・中之郷
主要作目
ルスカス（施設栽培）
抱負
まずは自身の農業経営を
安定させ、母の鉢物経営
と協力して、家族で農業
経営を盛り上げていき
たい。

八丈農業に携わる皆様、研修生のご指導と引き続きのお付き合いどうぞよろしくお願い致します。

地域の未来を見据え！地域の特性を生かした！新生JAを目指す！



◆共撰(共同出荷)に加入・出荷してみませんか◆

JAでは毎週、(月)(水)(土)にロベ切葉をはじめ、レザーファン、ルスカス、サンダーソニア(季節による)、一般切葉の共撰(共同出荷)を実施しています。

○場所:JA 集出荷施設(牛乳工場反対側建物)

○時間:午前8時~

加入手続きは簡単。まずは集荷所へ見学に！！

※ 詳しくは JA 島しょ本店経済指導

電話 2-1223 へお問い合わせください

「共撰」のポイント

- 規格を合わせた園芸品を持ち寄って出荷することで、品質の安定性がPR出来る。
- 共同出荷なので、各農家は梱包や出荷の労務負担が少なくなる。

委員メモ ～～市場価格の参考情報～～

インターネットが閲覧できる方は「東京都中央卸売市場」の「日報」で、都内各市場の農林水産品の相場の動向が閲覧できます。農家の方々は経営・出荷の目安に前述のwebサイトを一度閲覧されてみてはいかがでしょうか。

「ネキリムシ類の被害と防除対策について」

ネキリムシ類は、キャベツやハクサイ、ダイコンなど多くの野菜類で株元を食害する重要害虫の一種です。ネキリムシ類の主な種類は、「カブラヤガ」や「タマナヤガ」とよばれるガの幼虫で、いずれも広食性害虫で100種類以上の食草が知られています。

今年の5～6月にもアシタバやアブラナ科野菜等で発生が目立ちましたが、秋にも多発する場合がありますので、今後の発生に注意して下さい。

1. ネキリムシ類の生態

- ① 産卵：野菜畑や雑草地の地表面に近いところに1個ずつ産みつけます。
- ② 若齢幼虫：若齢幼虫は株元に生息しますが、摂食量が少ないため被害が目立ちません。
- ③ 老齢幼虫：その後、3～4齢幼虫が苗などの地際部を食害して切断します。昼間には土中に潜み、夜間になると株元をかみ切って食害するため、被害が拡大します。
- ④ 発生回数：年に3～4回程度発生し、被害は春～初夏および秋に多くなります。



ネキリムシ(カブラヤガ)の幼虫



カブラヤガの成虫



食害を受けたアシタバ苗

2. 主な防除薬剤

系統	薬剤名	使用量	使用方法	使用時期	対象作物	使用回数
有機リン	ネキリエースK (粒)	3kg/10a	土壌表面 株元処理	播種時又は定植時	キャベツ、ダイコン	1回
				定植時～生育初期 (収穫14日前まで)	ブロッコリー	4回以内
				発芽期～生育初期 (収穫14日前まで)	ニンジン	4回以内
				収穫30日前まで	ネギ、カブ	2回以内
ピレスロイド	フォース粒剤	9kg/10a	全面土壌混和	は種前	ハウレンソウ	1回
		4～12kg/10a			ニンジン	1回
		4kg/10a	全面土壌混和	は種時	非結球アブラナ科葉菜類、ゴボウ	1回
		4kg/10a	全面土壌混和	定植時	キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、 茎ブロッコリー	1回
		4～9kg/10a	作条土壌混和	定植時	ネギ	1回
他	アクセルベイト	3～6kg/10a	株元散布	収穫7日前まで	キャベツ、ハクサイ	3回以内
					ダイコン	2回以内
				収穫前日まで	ブロッコリー、非結球レタス レタス、エダマメ	3回以内

※) アシタバには上記薬剤の登録がないので、発生に気づいたら被害株付近で捕殺して下さい。

3. 防除する際の留意点

- (1) 被害を確認したら、作物の株元に粒剤(殺虫剤)を散布します。
- (2) 粒剤を土壌混和する際にはあまり深く混和しないようにして、殺虫効果を高めます。
- (3) 幼虫は土中の浅い所に潜むので、被害株付近を浅く(3cm程度)掘って捕殺します。
- (4) 雑草が多いと発生が多くなるので、前作から除草を徹底します。
- (5) 農薬の使用にあたっては、ラベルをよく確認し、使用方法及び回数を遵守して下さい。

<記事掲載協力>

東京都島しょ農林水産総合センター 八丈事業所園芸振興担当 TEL2-0042(直) 普及指導センター TEL2-3158(直)

農業委員会だより編集委員 沖山 慶孝 山下 馨 浅沼 博之 青木 保憲 奥山 完己